

よりよいこれからの生き方をお考えの方に

Vol.108

新年号

2021年1月15日

この冊子はエデンの園ゆかり会
会員の方に年4回お届けしています。

ゆかり通信

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 高齢者公益事業部 **エデンの園** 「ゆかり会」情報誌



 **interview**

浜名湖エデンの園 入居者

齋藤 道雄さん・秀子さんご夫妻

 **TOPICS**

2021年新年のご挨拶

YouTube (P.6)
「エデンの園チャンネル」のご紹介

新年のご挨拶

コロナ禍のスタート 明るい未来へ

浜名湖エデンの園 園長 溝口 壱



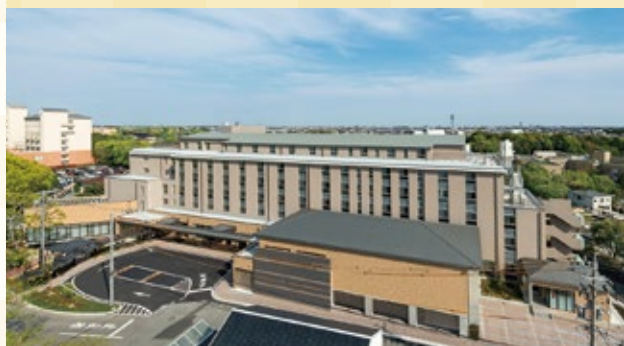
あけましておめでとうございます。

浜名湖エデンの園は2020年5月に新1・2号館建替工事が完了し、共用部のほとんどが一新いたしました。コロナ禍の中、万全な安全体制を取り、約100名もの新入居者を迎えることができました。これは、ご入居者並びに新入居者の皆さまのご協力の賜物であり、感謝申し上げます。

2021年においては、誰にとっても明るい未来が想像できる一年であって欲しいと願います。新型コロナウイルスが収束し、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、経済が発展していく、そんな年にしたいものです。

また、ゆかり会の皆さまには新たな浜名湖エデンの園をご覧いただけたらと思います。

本年も皆さまにとりまして幸多き一年になりますように、お祈り申し上げます。



新しい年への期待

聖隷福祉事業団 理事・常務執行役員
高齢者公益事業部長

平川 健二



あけましておめでとうございます。

ゆかり会の皆さまには、お健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。年の始めです今年に期待する楽しい事を考えたいと思います。

まずは、東京オリンピック・パラリンピック。スポーツが勇気と感動を与えてくれます。米国の火星探査ロケットが2月に火星に到着し、いよいよ生命体の存在が明らかになるかもしれません。

そして何よりも、新型コロナウイルスのワクチンと治療薬が開発され、私たちの生活に落ち着きが戻ってくることです。

春のお花見、秋の紅葉、自然の豊かさはコロナ禍でも変わらず私たちを迎えてくれます。エデンの園では、どんな時にもご入居者の安心と安全を守ることを最大の使命としており、ゆかり会の皆さまには園にお越しいただき実感していただくことを願っております。新たな年に期待を込めつつ、皆さまにとりまして素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。



新たな試み「WEBセミナー」の撮影(6月)

新たな年も心をひとつに

宝塚エデンの園 園長 中安 章人



ゆかり会の皆さま、あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、お健やかに初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、国民が待ち望んでいた『東京オリンピック』開催の年でしたが、世界的に新型コロナウイルスの感染者が発生したことにより、開催延期となりました。宝塚エデンの園においても計画していた行事・イベントの多くを中止、延期とし、感染防止対策で、ご入居者には今まで経験したことのない不便な生活をしていただいた年でした。

そんなコロナ禍でも宝塚エデンの園のご入居者や職員は、コロナに負けないという気持ちで心をひとつにして、この状況を乗り越えてきました。新たな年を迎え、宝塚エデンの園は、皆さまにとって安心、安全に生活できる終の住処であるように職員一丸となって取り組んでまいります。

ぜひ、ご自分の目で確認していただけますよう、ご来園をお待ちしております。皆さまにとって幸多き年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



輝かしい新年を迎えて

高齢者公益事業部 運営管理部長 渡辺 敬章



あけましておめでとうございます。

ゆかり会の皆さまには新春を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。

さて、『輝かしい新年』と表題に書きました。昨年は新型コロナウイルスにより大変な一年でした。そこで本年こそ皆さまにとって素晴らしい年となるように思いを込めさせていただきます。

昨年は私共にとりましても大変な一年でしたがその中でも浜名湖エデンの園新1・2号館が完成し、多くの新しいご入居者をお迎えすることができました。もちろん、既にご入居されていた皆さまにも新しい共用施設で大いに生活を楽しんでいただけていることと存じます。ゆかり会の皆さまにはセミナー、施設の見学、体験入居等の自粛によってご不便をおかけし、またご期待に沿えぬことが多かったことと存じますが、本年は募集活動においてWEBセミナーの他にも新しい内容で情報発信を行い、ご来園いただける機会を多くご提供できるよう取り組んでまいります。多くのゆかり会の皆さまを施設にお迎えできることを楽しみにしております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



浜松城
(徳川300年の歴史を刻む出世城)

新年のご挨拶

ご来園をお待ちしております

浦安エデンの園 園長 安達 美由紀

謹んで新年のお慶びを申し上げます。皆さまにとりまして、幸多き年となりますようお祈り申し上げます。

浦安エデンの園は、駅に近い好立地な中でも中庭の緑が四季折々に目を楽ませてください。春は桜、中庭でのお花見は格別です。外出がしにくい梅雨の時期は紫陽花が癒してくれます。初夏の

新緑、秋の紅葉は喫茶コーナーからの景観をグレードアップさせてれています。入居の決め手のひとつに中庭の景色を上げる方もいらっしゃいます。浦安エデンの園にお越しの際には、実際の中庭をご覧いただけましたら幸甚でございます。

コロナ禍のため、感染状況にあわせて見学を制限している場合もございますので、事前のお問い合わせをお願いいたします。皆さまのご来園を心よりお待ちしております。



明るく楽しく共に輝く年に

松山エデンの園 園長 栗田 昌宏

ゆかり会の皆さま、あけましておめでとうございます。

新春を迎え皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしく願いたします。

昨年、松山エデンの園は開園40周年を迎えましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、計画しておりました行事やイベントの多くが中止や延期となりました。今まで経験したことのない出来事によって忘れることのできない40周年であったと感じています。そのような状況の中、ご入居者ご家族またご見学者の皆さまにご協力いただきながら感染防止対策を継続することができたこと大変感謝申し上げます。本年も施設理念であります「明るく楽しく共に輝いて生きる」ご支援ができる対応を、職員一同取り組んでまいります。

本年も感染予防対策を継続したご見学対応となりますが、皆さまのご来園を心よりお待ちしております。



道後温泉別館 飛鳥乃湯

笑顔のために

横浜エデンの園 園長 北野 彰子

あけましておめでとうございます。

ゆかり会の皆さまにおかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスが発生し、これまで経験したことのない流行となりました。横浜エデンの園ではご入居者・ご家族の方々の協力のもと、感染防止対策として面会や外出の制限、行事や生活様式の変更等を実施し無事に新しい年を迎えることができました。

一方で、ワクチンの開発が進むなど、わずかながら明るい兆しもあります。2021年の干支「丑」は、先を急がず一歩一歩着実に物事を進める年と言われています。職員一同、多くの方々の「笑顔」にお会いできるよう、邁進してまいります。皆さまにとりまして、幸多き年となりますよう、お祈り申し上げます。



こちよい一年に

油壺エデンの園 園長 笹ヶ瀬 慶造

あけましておめでとうございます。

昨年は全世界でのパンデミック(コロナ禍)で、ご入居者と職員が心を一つに感染防止対策に明け暮れた一年となりました。募集活動も十分にできない状況が長く続き、入居検討をされているゆかり会の皆さまにも多大なご迷惑をおかけしました。未だ感染の劇的な減少は望めず、長期に渡りこのコロナと向き合っていく必要があります。このような時こそ、油壺の施設理念である

「ひとり一人とこちよく共に暮らす」という気持ちを携え、ご入居者がより安心してお暮しいただけるよう、ご入居者・職員一同で困難に立ち向かってまいります。

写真は、昨年春の緊急事態宣言中に園の屋上庭園からダイヤモンド富士をスマホ撮影したものです。ご一緒したご入居者共々、コロナのことを一瞬脳裏から消し去ってくれました。新型コロナウイルスの早期収束と皆さまにとって、こちよい一年となりますよう、お祈り申し上げます。



新年のご挨拶

開設10周年に向けて

藤沢エデンの園 総園長 山田 敬一



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

わたしたち藤沢エデンの園は、おかげさまで本年4月に開設10周年を迎えます。

これまでの皆さまからの多大なるご支援ご協力に感謝申し上げます。

昨年、藤沢エデンの園ご入居者をはじめ藤沢ウェルフェアタウンご利用者および職員の手によって5000羽をこえる折鶴が届けられ、それらひとつひとつを材料に素晴らしい貼り絵が制作されました。外出や様々な行事が自粛により制限され、ご入居者同士の直接の交流もなかなか難しい状況下「気持ちだけは密につながっていきましょう」という想いが形となった作品です。ご見学の際には、皆さまにも是非ご覧いただければ幸いです。



新年を迎え、あらためて心新たに、施設理念である『笑顔あふれる幸せの街づくり』を基に、更なる安心・安全な藤沢エデンの園を、職員一丸となって創り上げていく所存です。ゆかり会の皆さまにおかれましても、素敵な一年となりますようお祈り申し上げます。

入居者募集センターより皆さまと共に

高齢者公益事業部
入居者募集センター長 細田 成則



ゆかり会員の皆さま あけましておめでとうございます。

2020年10月に入居者募集センター長に着任いたしました細田成則と申します。

前任地の宝塚エデンの園では、副園長としてご入居者が安全で安心な暮らしをして

いただけるよう取り組んでまいりました。また、2020年はコロナ禍での生活であり、ご入居者の安全を守りながらも制限を緩和し、少しでも心にゆとりを持っていただけるよう努めてまいりました。



本部入居者募集センターの職員と

入居者募集センターはそれぞれのエデンの園に担当者が配置され、園の特色と環境を踏まえ、入居を検討する皆さまの立場に立って対応させていただきます。わからないこと、困っていることなどご遠慮なくご相談ください。ゆかり会員の皆さまにエデンの園の魅力を感じていただけるよう、また新たなご入居者としてお迎えできますよう取り組んでまいります。そして本部入居者募集センター職員も皆さまが安心していただけるようサポートしてまいります。皆さま、本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

入居して良かったのは、介護の不安が解消されたことと口を揃えるお二人。個人の生きがいは、「何かをやり遂げる達成感」と考える道雄さんは、「コロナ禍で部屋で過ごす時間が増える中、自分史を書き上げた。いつか介護を受けるようになったとき、ご自身の人となりや介護職員に伝わるようにするため。今後はエンディングノートの作成も予定している。

**今までと変わらぬ生活を
自分たちらしく穏やかに送る幸せ**

衣服類を処分しました」。秀子さんは、売却するもの、処分するもの、エデンの園に持っていくものに振り分け、それぞれ業者を探し手配した。作業は大変だったが、「使っていないものが多く、処分することで気持ちの整理もついたので、スッキリした状態で新しい生活を始められました」と言う。電気、ガス、インターネットのプロバイダ等の諸手続きなど、他にもやることは盛りだくさん。マンションの売却には10ヶ月を要した。精神的にも肉体的にも、引越は70歳までにと決めていた道雄さん。「早め早めの対応が良かったと思います。また、入居者募集センターの職員の方が申し込みから入居開始の1年間、準備や手続きに関してきめ細かく対応していただき、とても助かりました」。コロナ禍で施設への訪問が制限される中、職員がご夫妻の自宅まで足を運ぶこともあったという。「本当に安心して入居できました」と秀子さんは顔をほころばせた。

「いくつかのことも自分たちでできることは自分たちで」を大前提に、終活に真正面から向き合える場所として浜名湖エデンの園を選んだ齋藤ご夫妻。「ここでは、どんな問題が起きてても適正な解決が図られると信じている」というお二人の言葉には、入居に際し色々調べるべく出た答えだという力強さがあった。

深まれば、より良い関係が構築できることだろう。

「いくつかのことも自分たちでできることは自分たちで」を大前提に、終活に真正面から向き合える場所として浜名湖エデンの園を選んだ齋藤ご夫妻。「ここでは、どんな問題が起きてても適正な解決が図られると信じている」というお二人の言葉には、入居に際し色々調べるべく出た答えだという力強さがあった。

**何が起きてても安心という心強さ
終活に正面から向き合える場所**

調べ物が好きで図書館通いが日課だ。友人との食事を楽しんでいる秀子さんは「今までの生活と何の変わりもなく過ごしています」と満足している様子。3年後の結婚45周年には、クルーズ船での旅行を計画中だ。
元気なうちは自分で食事を作ろうと、食堂を利用するのは夕食時の月10回程度だが、「外食気分です楽しんでます。毎日の献立を考えるとから解放されるのも嬉しいし、とても美味しいんですよ」と秀子さん。将来、食事の心配がないのも大きな魅力である。



道雄さんが作成した「自分史」



自炊が多い生活



パソコンを使って調べもの

募集対象空室情報

【2021年1月1日現在】
17 室入居可能

お問い合わせ

詳細につきましてはフリーダイヤルにお問い合わせください。
[月～金曜日9:00～17:00 土・日・祝を除く]

60歳からいいわここ
☎0120-60-1055

interview
エデンで暮らす人

**終活スタートは
介護付有料老人ホーム探しから
元気なうちから将来の
安心を手**

2020年5月、入居者がより快適に生活できる環境へとリニューアルをした「浜名湖エデンの園」。コロナ禍の6月に入居し、エデンの園での新しい生活をスタートした齋藤夫妻の話から見えてきたものとは。



浜名湖エデンの園 入居者

お道雄さん
みちお 齋藤 道雄さん
おひで子 齋藤 秀子さん
ご夫妻

**自分たちの事は自分たちで
最後はプロに任せよう**

齋藤道雄さん(70歳)秀子さん(65歳)ご夫妻が、終の住処を検討し始めたのは今から10年前。計画的に物事を進めるタイプの道雄さんは、定年退職を機に自分たちの老後をどうすべきか、介護や施設について色々調べ始めた。浜松市出身のご夫妻は市内のマンションに二人暮らし。二人の娘は嫁ぎ、市内に家庭を持っていた。お二人が出した答えは「いくつになっても自分たちができることは自分たちでする」というものだった。

「将来予想される夫婦の介護を子どもたちに任せるより、プロの人たちにお願したいという希望がありました」。色々な選択肢の中から、住み慣れた土地、経営状態、総合病院が併設する安心感などを考慮し、要介護になっても住み続けることができる「浜名湖エデンの園」を終の住処と決めた。

**引越しの大仕事は70歳までに
スッキリした気持ちで新生活を**

モデルルームに泊まったり、何度か見学して、2年前から空室待ちだったが、2019年6月に訪問した際、希望に見合った部屋に空きが出て、すぐに申込み。一番苦労したのが引越しの準備だった。転勤族のため多くの転居を経験してきたご夫妻だが「人生10回目の引越で、初めて部屋の面積が約半分になるため、早々に断捨離を始め、家財道具や